



## シリーズ！ 活躍する2019年度日本ITU協会賞奨励賞受賞者 その3

かい つくる  
甲斐 創

日本テレビ放送網株式会社 技術統括局技術戦略統括部 担当副部長  
tsukuru@ntv.co.jp / tsukuru@rd.ntv.co.jp  
<https://www.ntv.co.jp/pc/>



ITU-R SG6関連会合において日本代表団メンバーとして継続的に参加し、HDR-TVの勧告化に主体的に寄与。また電波産業会（ARIB）など関連団体にて放送分野の国内標準化やSG6への日本寄与文書作成に寄与するなど、放送の観点からITUにおける国際標準化活動に引き続き貢献が期待される。

### HDR-TVを用いた放送サービス開始に向けた取り組み

この度、日本ITU協会賞奨励賞をいただいたことを大変光栄に思います。このような受賞に結びつく活動に尽力くださった多くの方々、ご推薦くださった関係者並びに選定委員各位に深く感謝いたします。

ITU-R SG6関連会合では、主にWP6C会合の審議に携わってきました。HDR-TVの勧告作成の際に、日本提案であるHLG（Hybrid Log-Gamma）方式の伝達関数の検証実験等に関わってきました。NHKと民放共同作業のほか、自社内においてHLGによる映像制作の検証を行うなど、ディスプレイの検証環境をメーカー技術者の協力を得て構築し、勧告に記載すべき数値の妥当性などを評価する実験を行いました。HDR-TVは勧告のみならず、同時に作成されたレポートも重要な役割を占めており、こちらへも寄与しました。国内においてHDR-TVを用いた放送サービスを実用化するにあたり、既存のSDR（Standard Dynamic Range）による番組制作との共存は避けられません。このような状況の中、民放連からの依頼に基づき、国内関連団体である電波産業会（ARIB）においてスタジオ設備開発部会スタジオ映像作業班の傘下にHDR番組制作・運用AdHocを立ち上げ、そのリーダーとして活動してきました。このAdHoc

における活動及びWP6C会合での審議状況を踏まえ、国内放送事業者及び放送機器メーカー各社の共同作業によって国内における技術資料ARIB TR-B43「高ダイナミックレンジ映像を用いた番組制作の運用ガイドライン」の策定に結びつけました。HDR-TVは、明るさの表現範囲を広げる技術であるため、明るさの基準が必要とされてきました。具体的な基準値を模索するために、HLGでの映像制作を行い被写体の明るさやグラフィックスの明るさの検証等を社内で行い、これらの経験を生かすことができました。また、このAdHoc発で、日本における人物の肌色レベル（実際に放送されている肌の明るさ分布）の分析結果等を寄与文書として入力し、レポートBT.2408への反映に貢献することができました。

現段階においてHDR-TVはSDRと比べて運用経験が浅いため、今後の経験から得られるアイデアなどが寄与に値するのではないかと考えております。これからも、HDR-TVの更なる普及につながる寄与、また次世代映像フォーマットの研究分野において貢献できるよう、活動を進めたいと考えています。